

平成24年度文部科学省採択
基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成事業
(B) グローバルな医学教育認証に対応した診療参加型臨床実習の充実

平成26年度事業案内

地域拠点と連携による ICT連動型臨床実習

～学生が医療チームの一員となるために～



北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University



札幌医科大学の紹介

理念

最高レベルの医科大学を目指します

- ・人間性豊かな医療人の育成に努めます
- ・道民の皆様に対する医療サービスの向上に邁進します
- ・国際的・先端的な研究を進めます

建学の精神

- 一、進取の精神と自由闊達な気風
- 一、医学・医療の攻究と地域医療への貢献

Contents

ごあいさつ	1
事業概要／実施体制・評価体制	2
地域包括型診療参加臨床実習の4大ポイント	4
カリキュラム	6
平成26年度 実習協力病院一覧	11
先輩からの臨床実習体験記	12





事業推進代表者

札幌医科大学
学 長

島 本 和 明

日本の医学教育は、諸外国に比べ臨床実習の診療参加度が低いと言われています。これは、日本の医学生の臨床実習の期間が短い事と、多くが見学にとどまっているためであり、残念ながら、実際の医療現場で必要とされる臨床推論能力の修得につながっていないのが現状です。

平成24年度、文部科学省は大学改革推進事業「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」として、国際標準の診療参加型臨床実習に向けた教育改革事業を公募しました。全国から10校が採択され、その中の一つとして、札幌医科大学「地域拠点と連携によるICT連動型臨床実習」事業が同年8月にスタートいたしました。

本事業の最大の特長は、広大な北海道において地域滞在型の診療参加型臨床実習を行うことです。“地域医療への貢献”を建学の精神に掲げる札幌医科大学では、長年培ってきた地域医療教育のノウハウと道内各地域との連携基盤があります。それらを活かすことで、実現が可能と考えました。

まず、臨床推論能力を向上させるためには、診断が未確定の患者に接することができる地域医療機関での臨床実習が必要です。本事業では、学生は道内の地域基幹病院に長期滞在し、医療チームの一員として診療に参加します。医療現場の一員として役割を遂行することは、臨床推論能力の向上のみならず、医師としての意識・責任感を高め、臨床研修医のレベルに近づく第一歩として、大きな教育効果をもたらすと期待しています。

また、病院内での実習の他に、その地域の診療所・介護施設・保健所等のサテライト施設においても実習を行うことで、地域密着型の実習を実現します。地域医療に携わる医療・保健・福祉等のシステムや地域の特性を理解し、多職種者と連携する中でコミュニケーション能力を向上させることができるものと考えています。対象学生も増加させ、全員必修とする方向で進めています。

本取組を通じて、札幌医科大学が診療参加型臨床実習の全国モデルとして日本の医学教育向上に寄与し、さらには北海道の地域医療に益々貢献できるよう事業を進めてまいりますので、関係の皆様には更なるご理解とご支援を改めてお願い申し上げます。



診療参加型臨床実習
企画・運営委員会

委員長

高 橋 弘 毅

卒前医学教育の新時代を迎え、臨床実習に関わるカリキュラムの大幅な改革が必至の課題となっています。本学では現1年生が4年生になる平成29年度から、医学教育認証評価に適合した臨床実習を開始する予定です。当委員会はそのカリキュラム作りを推進する役割を担っており、目下その準備が進められています。一方、平成24年度、新時代にふさわしいカリキュラム作りを促進することを目的に文部科学省が本事業を公募しました。それに本学のプログラムが採用されたことは、カリキュラム改革にとって絶好の追い風であると受け止め、現行のカリキュラムを真の診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップ）に改変していこう、また、教育の現場を大学の外へ拡大し地域医療と連携した指導体制を構築していこう、当委員会ではこのような目標を掲げ、これを委員の共通認識とし、本事業に取り組んでいるところでございます。

本事業では実習内容の骨子を、学生が地域基幹病院に長期間滞在し、①医療チームの一員として診療に参加すること、②地域医療のしくみをサテライト施設等の現場に向向いて学習すること、③ICTを利用して大学と実習病院を結び学習成果を発表することとしました。この趣旨にご賛同を賜り連携していただくことになった8病院におかれましては、現状に合わせ対応可能な診療科からプログラムを作成していただき、実習を開始しました。今年度で事業も3年目に入り、既に目に見えた成果が得られつつありますので、その一端を本冊子にてご紹介させていただければ幸いです。

本学の臨床実習期間は現在、54週ですが、本事業の最終年度（H29）には72週へ大幅に延長されます。また、学外と同様、学内においても診療参加型実習が確実に実践されていることが求められます。それを可能にする為の予算増額と臨床系教員の増員等の措置が必要であるとはいえ、やはり、現教員・指導医、学生がそれぞれの立場で意識改革をしていくことが前提となります。本事業にはそれを達成するための先導的役割があります。大学内外のご関係の皆様におかれましては、当委員会と共に新カリキュラムを構築する意気込みで取り組んでいただきますようお願い申し上げます。そして、本事業の仕上げを迎える2年後には、私たちが目指す実習プログラムが日本の医学教育モデルのひとつとして全国に向け提案できる内容に磨き上がっていることを切望しております。

「地域拠点と連携によるICT連動型臨床実習」の事業概要

本事業は、地域基幹病院において学生が医療チームの一員として診療業務を分担しながら臨床実習を行うことで、従来の見学型実習では修得できなかった、医療現場に即した基本的診療能力（臨床推論・対応力）を養います。

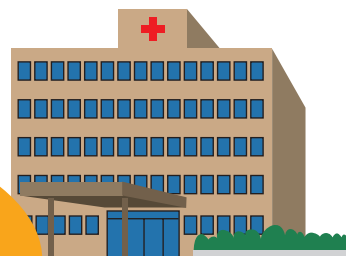
さらに、TV会議システムおよびe-learningを利用することで、大学と地域基幹病院を遠隔教育で結び、広大な北海道における地域密着型の医療実習を実現します。

札幌医科大学附属病院



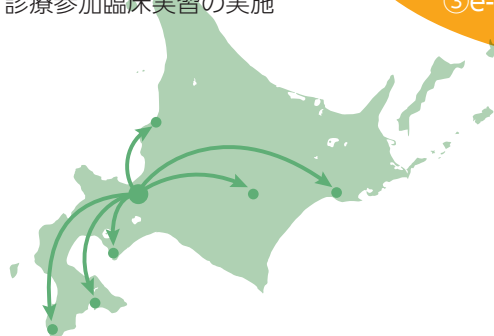
広大な北海道内の地域包括型診療参加臨床実習の実施

地域基幹病院



地域基幹病院を中心に診療所、介護施設、保健所にも実習先を広げ、地域医療を学ぶ。

- ①指導医として臨床教授等を任命し、実習概要説明会を通じて屋根瓦方式の指導体制を構築
- ②TV会議による学生教育と医学情報提供
- ③e-learning利用による教育



学生の役割とメリット

- 医療チームの責任ある一員として診療に参加する
- チーム内討議で高いレベルの臨床推論力が身につく
- 患者や他の医療者とのコミュニケーション能力が養われる
- 多職種間連携の重要性を理解できるようになる
- 一般的な症例に対する経験とプライマリーケアを多く修得できる
- 大学と地域を結ぶTV会議により質の高いディスカッションを行う
- 北海道の広さ、及び医療格差を認識できる
- 地域医療における病診連携の重要性を理解する
- 行政との連携、及び介護制度など社会福祉制度を深く理解できる

事業の背景

日本の医学教育=見学型?

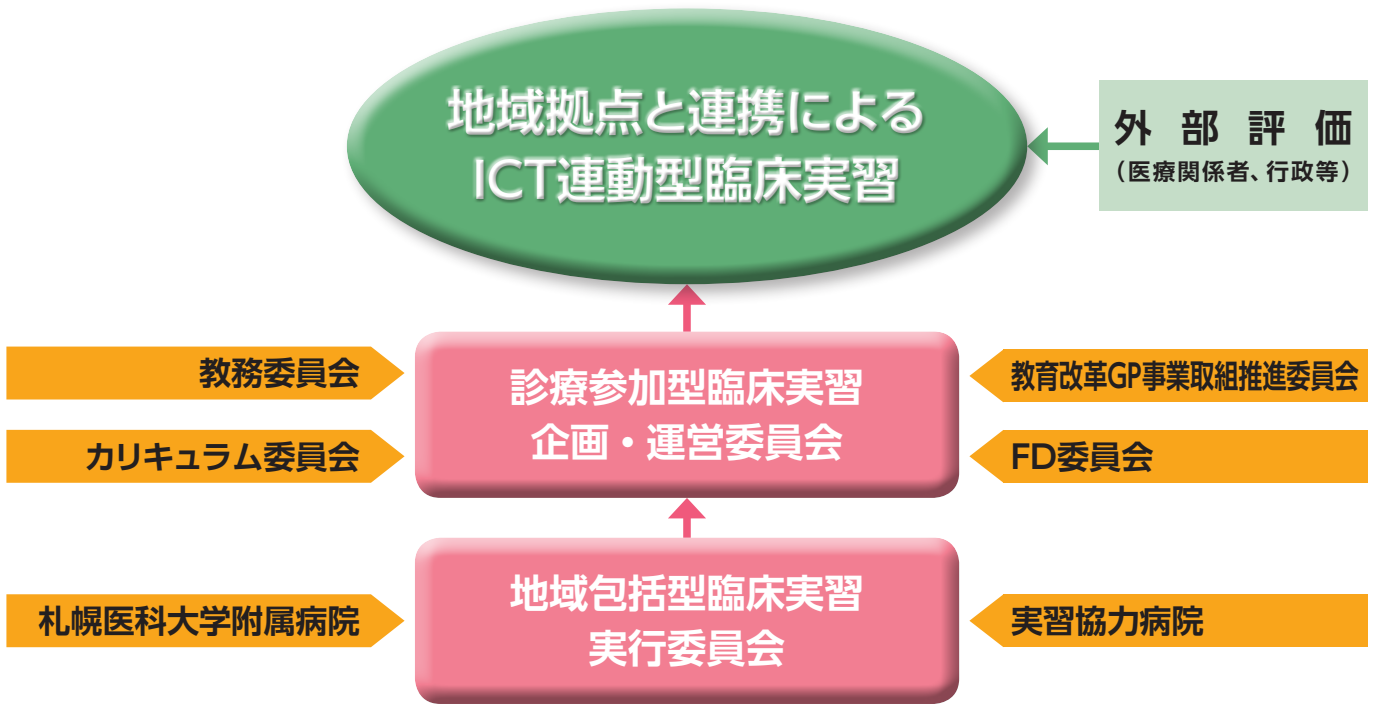
- 医療の高度化・複雑化・多様化にとまらぬ、医師は高度かつ多様な知識・技術の修得、コミュニケーション能力等の向上を社会から求められています。
- しかしながら、教員や研修医不足等の課題を抱える大学において、日本の医学生の臨床実習は、内容が見学にとどまるものであり、知識・技術の修得につながっていません。
- 臨床推論能力を向上させるために、診断が未確定の患者に接することができる、地域医療機関における診療参加型臨床実習が必要とされています。

事業のねらい

診療参加型臨床実習を実現するために

- 地域基幹病院を中心に長期滞在型の臨床実習を行います。
- 医療チームの一員として診療に参加、役割を遂行しチームに貢献します。
- 地方自治体と提携することで、診療所・介護施設・保健所等を含む地域密着型の臨床実習を行います。

事業の実施体制・評価体制



事業推進代表者

札幌医科大学 学長 島本和明

事業推進責任者

医学部長 堀尾嘉幸

診療参加型臨床実習企画・運営委員会

委員長 呼吸器・アレルギー内科学講座	教授 高橋弘毅	委員 地域医療総合医学講座	教授 山本和利
委員 消化器・免疫・リウマチ内科学講座	教授 篠村恭久	委員 神経科学講座	教授 長峯 隆
委員 循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	教授 三浦哲嗣	委員 医療人育成センター教育開発研究部門	教授 相馬 仁
委員 腫瘍・血液内科学講座	教授 加藤淳二	委員 医療人育成センター教育開発研究部門	准教授 白鳥正典
委員 消化器・総合・乳腺・内分泌外科学講座	教授 平田公一	委員 公衆衛生学講座	准教授 大西浩文
委員 産婦人科学講座	教授 齋藤 豪	委員 医療人育成センター教育開発研究部門	講師 苗代康可
委員 小児科学講座	教授 堤 裕幸		(平成26年9月現在)

本事業に対する文部科学省選定理由

屋根瓦方式の教育体制、地域基幹病院およびサテライト病院への配属など、指導体制が適切であり、指導医の指導能力向上や負担軽減のための措置がなされており、見学型ではなく診療参加型の臨床実習となっている。本事業の実施前と実施後を比較した場合、臨床実習の内容や指導体制等の改善度合いが大きい。

また、臨床実習期間の大幅な延長、学内と学外とが一体となった実習の取組、詳細に検討された実習項目、さらにこれらの実習を支える人的ネットワーク、各種方法論、そして運営体制、評価体制のいずれとも申し分ないプログラムである。

導入時に8週間の地域医療必修実習を設定するなど、臨床実習の実施計画は新規性・独創性が高い。事業の成果として実現すれば全国の地域医療教育の発展につながるものである。

北海道という地域的特性や教育資源の有効活用の点から遠隔教育は不可欠であり、モデル構築を期待したい。

地域包括型診療参加臨床実習の

POINT 1

臨床思考力UP! 医療チームの一員として診療参加

- 従来の見学型から医療チームの一員として、外来・回診・検査・処置・治療において役割を持ってチーム診療に参加します。
- 大学では多く経験できない一般的な症例に対する臨床推論・対応力を身につけます。
- 4週間実習協力病院に滞在し外来→入院→退院と、他の診療科と連携しながら一連の臨床経過等を学習します。
- チーム医療の中で、コミュニケーション能力を養成します。
- 救急、夜間当直、ドクターヘリなどの救急対応を学びます。



POINT 2

プレゼンテーション力UP! 学生症例発表会 (ICT連動型教育)

- チーム医療に必要なプレゼンテーション能力を養成します。
- 担当症例についての発表と帰学後に経過を追跡し、臨床経過を理解します。
- 発表内容について学生同士でディスカッションし、病態についての理解を深めます。



学習カリキュラム

STEP 1

履修ガイダンス スキルラボトレーニング

目標を明確に万全のトレーニングで実習にのぞむ!

STEP 2

臨床実習

チームの一員として積極的に診療参加し、臨床対応力を身につける!

STEP 3

学生症例発表会 経過追跡会

実習で学んだ知識をアウトプット! 理解を深める

4 大ポイント

初期臨床研修医へ実効性のある臨床実習を目指す!

POINT 3

地域医療のしくみを実感! サテライト施設における地域密着型実習

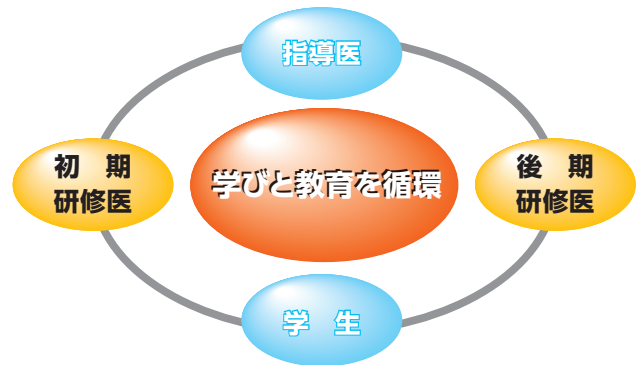
- サテライト施設で地域における医療・保健・福祉・行政のしくみを学習します。
- 多職種による連携・協働を理解します。



POINT 4

大学と実習協力病院の協働による 充実した指導体制

- 指導医、後期研修医、初期研修医による屋根瓦式の教育体制でしっかりサポートします。
- 実習協力病院及びサテライト施設で実習概要説明会を実施し、実習目的等の理解を深めます。
- 実習に係る実務を統括するコーディネーターを実習協力病院及び大学から選出し、病院と大学との連携強化を図ります。
- 大学から教員を定期的に視察派遣し、実習内容を調整・改善します。



STEP 4

サテライト実習

地域医療のしくみと多職種連携を学ぶ!

STEP 5

まとめ講義

地域包括型診療参加臨床実習で学んだ事を次に活かす!

基本的
診療能力
の養成

STEP 1

目標を明確に万全のトレーニングで実習にのぞむ!

履修ガイダンス

学生の実習配属病院決定後、改めて診療参加型臨床実習の意義と目標を確認するとともに、実習プログラムやスケジュール、事前準備等の詳細について担当教員から説明を行います。



スキルスラボ トレーニング

臨床実習前にスキルスラボの様々なシミュレーターを用いて、教員の指導下で診察や処置の実習トレーニングを行い、4週間の臨床実習に備えます。

シミュレーターの一例

- AEDトレーニングシステム
- 耳診察シミュレーター
- 外傷・救急超音波教育ユニット
- 心音聴取シミュレーター
- 採血・静注シミュレーター
- 呼吸音聴診シミュレーター
- 導尿トレーナー
- 血圧測定シミュレーター
- 直腸検査トレーナー
- 気道確保シミュレーター
- 外科縫合セット
- 胸腔穿刺シミュレーター
- 眼底診察シミュレーター



Message



笠羽一敏 さん
実習診療科：脳神経外科

この実習では、「自分が研修医になった時に必要な事」を学ぶことができました。例えば、脱水傾向の患者さんがいた場合、学生レベルでは「輸液」と答えますが、実際の現場では「何を、どの程度、どのくらいの期間輸液するか」を考える必要があります。診療に参加することで、国家試験後の現場で必要なことを多く学ぶことができました。

また、手術後のフォローアップでは、回復期・療養期病院への転院調整を行っていく上での診療連携について学ぶことができました。「1ヶ月間積極的に実習に臨む態度とやる気」をもって臨めば、必ずや充実した実習をうけることができます。自信を持ってお勧めします。



西村友佑 さん
実習診療科：消化器内科

経験豊富な指導医の先生から研修医の先生と、屋根瓦式でしっかり指導してもらえたのでとても良かったです。手技的な面でも思っていた以上に積極的に参加させてもらって、実践の中でこそ学べる非常に有意義な実習でした。サテライト実習は事前にその施設について勉強していくと見方が変わってくると思います。4週間の実習で、医師としてのスタートラインに立つという最も重要な事を成し遂げる意欲につながる、本当に貴重な経験をさせていただきました。

STEP 2

チームの一員として積極的に診療参加し、臨床対応力を身につける!

臨床実習概要

4週間の実習を通して、外来・回診・検査・処置・治療など、チーム医療の中で役割をもって実践的に学びます。選択した診療科だけでなく、救急など他の診療科と横断的に連携しながら、一般的な症例に対する臨床推論・対応力を重点的に身につける地域包括型の診療参加臨床実習です。



地域包括型診療参加臨床実習・週間予定

例) A病院・消化器内科の場合

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 カルテ記載	病棟回診 カルテ記載	病棟回診 カルテ記載	病棟回診 カルテ記載	病棟回診 カルテ記載
	腹部エコー 救急当番	腹部エコー 救急当番	診療所実習 または 老人ホーム回診	外来アナムネーゼ (救急当番)	外来アナムネーゼ (救急当番)
午後	内視鏡検査 (血管造影)	内視鏡検査 (血管造影)		内視鏡検査	内視鏡検査
夕方/夜	学生症例発表会 (TV会議)	外科 カンファレンス	夜間救急呼出	外科 カンファレンス	

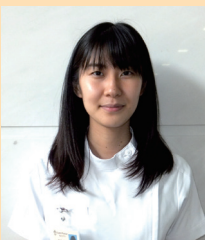


例) B病院・外科の場合

	月	火	水	木	金
午前	手術症例カンファレンス 病棟回診、検査	ミーティング 訪問看護室	ミーティング 病棟回診、検査	ミーティング 病棟回診、検査	ミーティング 病棟回診、検査
	手術助手 カルテ記載	訪問看護師 に帯同	手術助手 カルテ記載	手術助手 カルテ記載	手術助手 カルテ記載
午後	手術助手 カルテ記載	老健施設 回診・実習	手術助手 カルテ記載	手術助手 カルテ記載	手術助手 カルテ記載
夕方/夜	学生症例発表会 (TV会議)			カンファレンス	救急指定日当直



Message



吉崎那保 さん
実習診療科：循環器内科

1ヵ月間同じ病院で、熱心な指導医の先生方の下で研修医に近い実習をさせてもらえるという贅沢な環境の中で、日々のカルテ記載など円滑に仕事を進めるコツを学びました。回診や外来問診、検査等あらゆる場面でチームの一員として参加できたので、循環器の知識は勿論、疾患や検査の考え方、鑑別、処方等の実臨床の知識を得られ、ひとまわり成長出来ました。この実習を選択して本当に良かったです。



宮森大輔 さん
実習診療科：循環器内科

実習では指導医の先生の指導の下、役割をもって診療に積極的に参加することができました。上級医が研修医を教えて、研修医が私を指導するという、屋根瓦式での実習過程の中で臨床的な考え方を身につけることが出来ました。カルテやサマリーの記載を通して、自覚的所見・他覚的所見から判断し患者さんの評価を行う具体的な方法や、治療計画の組み立ての方法を学ぶことができ、研修医としてスムーズなスタートを踏み出せる力になりました。

STEP 2

チームの一員として積極的に診療参加し、臨床対応力を身につける!

地域包括型診療参加臨床実習一日のスケジュール

[内科実習の一例]

08:00

●朝の回診

担当患者さんを訪ねて診察。カルテで検査データや前夜の看護・診療記録を確認。指導医の先生とディスカッションし、病気や検査についてのミニレクチャーをうけ、カルテ記入。



09:00

●チーム回診

指導医の先生とチームで担当する患者さんの回診に参加。



10:00

●検査・外来

指導医の先生と各種検査に参加。新患外来の日は予診をとる。



12:00

●昼食時間

先生方と一緒に昼食をとる。今後医師になってから必要なことや国家試験・マッチングについても教えてもらう。

13:00



14:00

●検査に参加

各種検査に参加。検査の意義や手順、所見の読み方などを学ぶ。



15:00

●病棟業務

カルテ・サマリ・入院指示書を記入し指導医の先生に確認。患者さんの回診や処置の補助を実施。

16:00

●チーム回診

指導医の先生と患者さんの回診に参加。



17:00

●カンファレンス

各症例についてチーム内で検討。担当症例について発表する。

18:00

Message



箱崎 頌平 さん
実習診療科：循環器内科

患者さんの話を聞いたり、どんな治療が必要で、どういう結果が出ているのかを毎日見て、指導医の先生とディスカッションしていく中で、フィードバックをしていくことが一番勉強になりました。心エコーでは技師さんが丁寧に指導してくださり、心エコーに対する抵抗がなくなり、自信につながりました。また、一人の患者さんを入院から退院まで診るといった経験は他の臨床実習ではできない、この診療参加型臨床実習ならではの魅力です。



高橋 有毅 さん
実習診療科：心臓血管外科・呼吸器外科

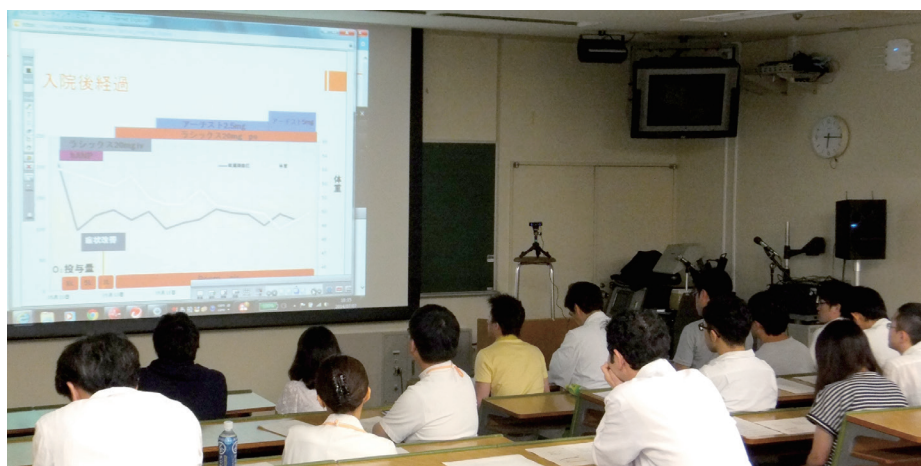
チームの一員として診療に参加しているという高いモチベーションで、実習に参加することができました。手術にも医学生が許容されている範囲で役割をもって参加でき、カルテを術前・術後・退院まで記載し、指導医の先生に確認いただきながらサマリーを書くことは、これまでの実習ではなかなかやる機会がなく、とても勉強になりました。北海道では札幌医科大学でしか選択することのできない実習プログラムなので、この実習に少しでも興味がある学生は絶対に参加するべきだと思います。

STEP 3

実習で学んだ知識をアウトプット！ 理解を深める

学生症例発表会

実習後半に、北海道内の各実習協力病院をTV会議システムで接続し、「学生症例発表会」を行います。担当症例について、分からない点は積極的に自分で調べ指導医に相談し、チームの一員として発表します。また、各発表内容について学生同士で質問し合い、臨床上の分からない点は大学教員に質問し、知識・スキル等を共有します。



経過追跡会

実習終了後、大学に帰学してからも担当症例についての経過を追跡し発表を行います。

〈発表症例テーマ一覧〉

ロタウイルス性胃腸炎の一例	腹腔鏡下胆嚢摘出手術の一例
肺扁平上皮癌stageⅣの一例	急性胆石胆嚢炎に対する緊急腹腔鏡下胆嚢摘出術を行った一例
StageⅣ大腸癌に化学療法を施行した一例	転移性肺腫瘍の一例
拡張型心筋症の一例	上行結腸癌の一例
胸の重苦しさを訴え来院した一例	glioblastomaの一例
潰瘍性大腸炎の経過中にみられた肝機能障害の一例	白血病治療中に発症した肺アスペルギルス症に対する葉切除の一例
BOT療法によって良好な血糖コントロールが可能となった膵性糖尿病の一例	高温多湿環境に曝露され、熱中症から多臓器不全を呈した一例
PCIで冠動脈穿孔を起こした一例	川崎病の一例



Message



鶴田 航大 さん
実習診療科：心臓血管外科・呼吸器外科

実習と同時進行で学生症例発表会の準備も進めていきました。指導医の先生方からきちんと指導していただけたので、良い緊張感を持って発表に臨めました。地域にいてもテレビ会議でのディスカッションを通して、他の地域で同じように実習をしている仲間の顔を見ると更なるモチベーションUPにも繋がり、また、プレゼンテーション力も付いたので、とても良い経験ができました。



四十坊 直貴 さん
実習診療科：呼吸器内科

この実習で、私はプレゼン能力を向上させることを学習目標の一つとしてあげていました。学生症例発表会に向けて担当患者さんの情報を把握しながら、カンファレンスなどでのプレゼンテーションや先生方に対して発表練習を行い、準備を進めていきました。当日はしっかり発表することができ、実習前と比べてもプレゼンテーション能力は確実に向上出来ました。

STEP 4 地域医療のしくみと多職種連携を学ぶ!

サテライト実習

週に1日程度、地域基幹病院を中心に地域医療を支える施設（介護老人保健施設、訪問看護ステーション、保健所、消防署等）で実習し、多職種連携と地域医療を学びます。

広い視野をもった医療人の育成を目指します。

主なサテライト実習施設一覧

診療所／療養型病院／介護老人保健施設
特別養護老人ホーム／訪問看護ステーション
保健所／消防署／夜間救急センター
地域医療連携室

STEP 5 地域包括型診療参加臨床実習で学んだ事を次に活かす!

まとめ講義

4週間の臨床実習最終日に札幌医科大学にて行われる「まとめ講義」で、実習のまとめをディスカッション形式で行います。実習の振り返りを共有することで、チーム医療、地域医療、多職種連携等への理解を深めます。まとめ講義での学習課題を次の臨床実習で活かしていきます。



Message



渡久山 晃 さん

実習診療科：
外科・消化器外科

サテライト実習では1週目が特別養護老人ホーム、2週目が療養病院、3週目が消防署、4週目が家庭医療と、多くの施設に行きました。その中で地域連携に触れ、ぼんやりしていたそれぞれの役割の違いやどう関わっているのかという部分が自分の中で見えてきて、地域における他職種との関わりを学ぶことができました。



茂庭慶悟 さん

実習診療科：
麻酔救急科

訪問看護施設でのサテライト実習では、PEG交換や気管カニューレの交換を実際に見ることができ、卒業後働いてからでは経験しにくい処置やリハビリ内容を見学、体験することができました。医療と介護の共存の重要性を学ぶことができ、とても充実していました。



柳谷玲央 さん

実習診療科：
小児科

消防署の救急車同乗実習では、積極的に可能な範囲で業務を手伝うことができ、病態を想像して問診することができました。また、さまざまな症例や社会的背景に関わるような問題など、地域の救急の実状をみる事ができました。また、救急隊の方と意見交換もさせていただけたのはとても有意義でした。

平成26年度「地域包括型診療参加臨床実習」実習協力病院

実習期間：平成26年5月12日～6月6日および平成26年6月16日～7月11日（各4週間）

実習協力病院：市立釧路総合病院、留萌市立病院、松前町立松前病院、市立函館病院、函館五稜郭病院、市立室蘭総合病院、製鉄記念室蘭病院、帯広厚生病院

実習学生数：14名（医学部第6学年・必修選択臨床実習）



先輩からの臨床実習体験記

「今後の臨床研修につながる 大きな財産を得ました」

地域包括型診療参加臨床実習を選択した理由は？

私は、地方病院の小児科医の現状・小児科における感染症に興味がありました。大学の第6学年の臨床実習では同じ病院で2週間しか実習ができないのですが、この実習では同じ病院で4週間実習ができるので、地方病院の小児科医の現状をより深く知ることができると思い、選択しました。

実習先での1日のスケジュール

日々の臨床実習としては、午前中に病棟回診、カンファレンス、外来を行い、午後はワクチン外来や乳児健診・学校検診、帝王切開に立ち会い分娩後の新生児の処置等の見学をしていました。また随時、産婦人科の先生に経膈分娩、麻酔科の先生にドクターヘリや重症患者が搬送された際にPHSで呼び出しいただいて、小児科だけでなく複数の科にわたり実習を行っていました。

大学病院では見られないcommon disease な症例を経験することができ、病棟回診では、ほとんどの患者さんが3歳以下なので、お母さんとのコミュニケーションの大切さや、大人の患者さんを診察する時との視点の違いを感じることができました。また、実習期間中に運ばれてきたお子さんが、入院して、良くなって、退院するという一連の流れを見ることができて、とても勉強になりました。



高石 恵一さん

[実習病院]
市立釧路総合病院

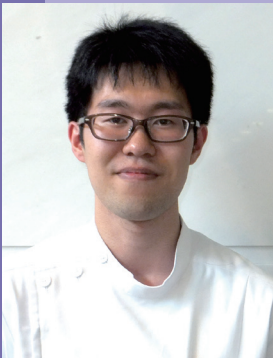
「臨床現場チームの一員として得た 様々な経験と知識」

地域包括型診療参加臨床実習を選択した理由は？

4週間という長い期間を地域の病院で過ごすことによって、大学病院とは違う視点で医療を学べるのではないかと、また診療参加型でより臨床に近い形で実習することによって様々な経験ができ、より勉強になるのではないかと、思い、選択しました。

実習先での1日のスケジュール

基本的な日々の実習として、朝は担当患者さんを回診した後、午前中は上部消化管内視鏡検査、午後は下部消化管内視鏡検査やERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）、イレウス管挿入、PEG（経皮内視鏡的胃瘻造設術）などの見学でした。病棟で処置があれば、その見学ができ、救急当番の日であれば、救急患者さんの対応も見学させていただきました。何度か見学したことのある検査や処置であれば、先生の指導のもと介助や実施させて頂くこともでき、とても貴重な経験になりました。外来で実習の日は予診をとらせてもらい、患者さんによっては先生と一緒に医療面接や身体診察もとり、カルテを書かせていただくこともできました。サテライト施設での実習



大岩 修太郎さん

[実習病院]
留萌市立病院

「4週間の実習だから体感できた地域医療の現場」

地域包括型診療参加臨床実習を選択した理由は？

私は将来、北海道で地域医療を実践したいと思い、その勉強の為に松前町立松前病院を実習先として選びました。医療環境としては後方病院から車で2時間の距離にあり、病床数100床と北海道の地域医療の実際の様子や課題などを間近に見ることができる病院であり、将来、地域医療に従事するにあたって必要な能力を今の段階から具体的にイメージすることができると思います。また、教育環境は、院長をはじめとして指導に熱心な先生方やコメディカルの方が多くいてくださるため、是非、松前町立松前病院で4週間の実習をしたいと思いました。

実習先での1日のスケジュール

基本的に朝7:30からカンファレンスや勉強会が1時間程度あり、救急症例などがあればカンファレンスで発表しました。その後は、病棟で担当患者さんの診察・カルテ記載、外来見学・予診とり、家庭・施設・グループホームへの訪問診療などを行いました。実習中は、問診・身体診察・採血・関節穿刺など機会があれば、指導医の指導の下で行う事が出来ました。

救急外来は、救急車やウォークインで患者さんが来た場合PHSで呼んでいただき、随時実習させていただくことができました。施設から発熱や倦怠感、転倒の主訴で来院される方が多い印象ですが、胃潰瘍による出血、胆のう炎、尿路結石など発症頻度の高い疾患にも対応し、勉強することができました。

救急対応は、平均して一日に3件程度だとは思いますが、救急外来をファーストタッチで対応させていただき、問診



鈴木 哲さん

[実習病院]
松前町立松前病院

診療参加という面では、責任ある仕事も任せていただきました。5年生の臨床実習で習得したことを活かしながら、「患者さんの思いを聞く」という点では満足 of いく実習が出来たと思います。

市立釧路総合病院は、まず院長先生が接しやすい方で、職員の方々の間の繋がりも感じられたので、実習をさせていただくにはとても良い環境でした。

サテライト施設での地域実習について

地域実習では、ホスピス施設の見学、訪問看護、救急車同乗実習（救命士に同行）、地域医療連携室での実習を経験しました。

特に勉強になったのは、地域医療連携室での退院前訪問への同行でした。大学病院にいと、退院後のことはあまり想像できませんでしたが、退院後のことを考えて熱心に働いている方がいるということを知る機会があって本当に良かったと思います。

複数の診療科を横断的に実習でき、サテライト施設でコメディカルの方々と同行できるこの臨床実習は、とても有意義だと感じました。

TV会議システムを使った学生症例発表会について

パワーポイント資料を用意して一人で発表するというのは、通常だと初期

日は病院の隣の東雲診療所で半日間、予診をとり、また外来の見学をすることができました。これ以外にもカンファレンスへの参加や週に1回の研修医向けセミナーへの参加、ランチョンセミナー、抄読会などにも参加させてもらい大変勉強になりました。

実習を通して得たもの、学んだことについて

実習を通じて今、臨床の現場でトピックとなっている知識や、実際に医師として働いていく上で大切な知識を得ることができたと思います。次に、様々な検査や処置を見学し、介助など実際に経験することによって、その検査の意義や手順、所見の読み方などを学ぶことができたと思います。検査中や検査が終わった直後にその場で教えてもらえることが多く、とても勉強になりました。次に、症例発表などを通じてプロブレムリストの立案やプレゼンテーションの方法などを学べました。

また、1ヵ月間同じ科で実習していたので、同じ科の先生はもちろん、病棟や検査部の看護師さんなどと接する機会も多く、よりよい実習を行っていく上でコミュニケーション能力は必要であり、この実習を通じて向上したのではないかと思います。地域の病院で実習する中で一番印象に残っていることは、退院の際に患者さんを自宅退院にするのか、自宅退院できなければ、どこ

から身体診察、ベッドサイドでの検査、入院時サマリー記載、カンファレンスでの発表、入院中の観察や退院サマリー記載まで、一人の患者さんを来院から退院まで担当させていただき経過を見ることができたのは、4週間という実習期間でなければできないことなので、勉強になることが多かったです。

夕方には、時々ジャーナルクラブやコメディカル、施設の方々との勉強会などもあり、色々な視点から地域医療を学ぶことができました。全てにおいて先生方からアドバイスやフィードバックをいただけたので、私にとって大変貴重な経験となりました。

実習を通して得たもの、学んだことについて

地域医療には様々な特徴があると思います。特に、コンサルテーションのタイミングや、社会的背景を考えながらの退院調整、家族の介護能力を考慮に入れた入院適応の判定など、地域医療ならではの医師に求められる判断能力・知識を、今回は学ぶことができました。介護保険制度については実際の現場ではなくてはならない知識である反面、あまり勉強する機会が多くなかったので、そういった知識も得ることができ、考えの幅がとても広がりました。

また、地域の病院で患者さんの主訴に対し出来る限りの幅を持って対応しようとする医師としての態度は、まさに全科診療を体現しているように思えます。

臨床研修医になってから経験するものだと思うので準備等大変苦労しましたが、それを学生のうちに経験できたことは大きな力になったと思います。また、プレゼンテーションや症例発表で、先生方に沢山のご指導をいただき、これらに関しては能力をさらに深められたと感じています。

後輩へのメッセージ

選択ポリクリの4週間という長い実習期間を利用して、学生のうちに大学の外に思い切って飛び出してみようというのは大変貴重な経験となります。この実習では複数の診療科を横断的に実習できるという点で、どの診療科の臨床実習よりも優れていると思います。大学病院では学べないことを何事も吸収していこうという貪欲な気持ちがあれば、それはきっと素晴らしい4週間となるでしょう。私はこの4週間で、特に新生児・乳児の発熱の際にはどのようなことに着目し注意しなければならないのかを学ぶことができました。また症例プレゼンテーションやプロブレムリストの立案など、初期臨床研修で一通り求められるような実践的な臨床実習を経験し、自らの能力向上に繋がることが良かったと思います。この実習に参加して、4週間後皆さんも一回り大きくなった自分に会ってみませんか？

に退院とするのかという点を考慮していることでした。高齢者が多いことや家族が都市部にいること、仕事のことなどを考慮しながら退院について考えるという事は、大学病院での実習のみではあまり想像できていなかったもので、とても印象に残りました。

後輩へのメッセージ

6年生の時期に4週間という長い期間、札幌を離れて実習するというのは国家試験やマッチング、部活のことなどを考えると選択しにくいかもしれませんが、確かに実習自体も決して楽ではありません。ただ、毎日がとても充実し、とても楽しい実習でした。この4週間で経験したことは、大学病院での実習では経験できない貴重な経験ばかりで、自分自身はこの実習でかなり成長できたと感じています。チームの一員として実習することで、先生方は丁寧に教えてくれますし、様々なことを経験させてくれようとしています。それにこたえるだけのやる気があれば、多くの知識や経験を得ることができ、必ずよい実習になります。この実習で得た経験は必ず初期研修やその先の医師人生でも必ず役に立つことだと思っています。ぜひこの実習に参加してみてください。

した。こういった病院では、まさにジェネラリストマインドをもった医師たちが地域の患者さん達の為に日々奮闘しており、その姿に大きく感化されました。そういった姿勢が地域住民の方達の役に立っていると思いました。

地域医療を志してもアウトカムなどが分かりにくいことなどありますが、この病院は、将来のロールモデルとなる方を見つけられる病院であり、大変居心地が良く、そういった先生方の姿を見ることすべてが将来の目標の為の学びになったと思っています。大変モチベーションをあげることができた実習でした。

後輩へのメッセージ

実習を受け入れて下さった松前町立松前病院は、やる気と積極性さえあれば、先生方・コメディカルの方たちはほとんど協力していただけますし、自分がやればやるだけ得るものも大きくなる病院だと思います。この実習を履修するに当たって、少なくとも診断学、問診・身体診察、Gram染色から微生物の推定、心電図について復習してから臨むと、より楽しく、より充実した実習ができると思います。是非、4週間の地域包括型診療参加臨床実習で、問診・身体診察・プレゼンテーション能力などの技能だけでなく、地域医療を実践する病院の雰囲気、住民・地域との関わり合いなど、地域医療ならではの側面も積極的に体感してほしいと思います。

先輩からの臨床実習体験記



西村友佑さん

[実習病院]
市立函館病院

「地域包括型実習だからこそ 学べた地域全体での医療」

地域包括型診療参加臨床実習を選択した理由は？

興味のある分野、特にcommon diseaseについて、より実践的に、たくさんの症例に触れることで、近い将来臨床の場で活かせる経験を積む事ができると考え選択しました。

市立函館病院はマッチングの選択肢の1つとして考えている病院であり、それも含めてアピールができるかな、また、地元なので慣れ親しんでいるといった本来の趣旨から外れた意図も若干あり、選択しました。

実習を通して得たもの、学んだことについて

私は、化学療法を中心に勉強しました。地域の基幹病院として実に多くの患者さんを受け入れているため、比較的一般的な症例についての疾患はレジメンの選択のアルゴリズムが自然とわかるようになりました。腹腔穿刺など、清潔操作が求められる手技も、指導医の下で希望すれば経験させて頂きました。どんなことでも、経験を積み重ねなければできないということを実感するいい機会になりました。

実習先での1日のスケジュール

8:00	担当患者さんの診察、カルテ記入。
9:00	指導医と合流し、回診後、病棟でのエコー検査や腹腔穿刺などの処置に参加。
12:00	食堂にて昼食
13:00	内視鏡室にてポリペック、ERCPなど見学。 食道や胆管のステント留置なども見学。合間をみてファントムでの内視鏡の練習。
16:00	医療連携室カンファレンスに参加。 終末期の患者さんで、自宅を最期を迎える決意をした方がいらっしゃいました。その方の家族、消化器内科や緩和チームの医師、看護師、地域医療連携室のスタッフ、さらには今後の患者さんを支えていくことになる訪問看護ステーションの職員の方が一堂に会し、サポート体制について協議していくものでした。1つ1つの質問に対し丁寧に答え、参加者全員でレポートする姿が印象的でした。
17:00	症例発表会の内容について指導医と打ち合わせ。
18:00	回診し、カンファレンスに参加後、実習終了。



下山浩平さん

[実習病院]
函館五稜郭病院

「実習で研修医と同じような仕事を体験」

地域包括型診療参加臨床実習を選択した理由は？

今回私が地域包括型診療参加臨床実習を選択した理由として、研修医になった時にスムーズに仕事をすることができるよう、研修医がどのように働いているかということや学生のうちから体験しておきたかったということと、地域病院における外科で、術前・手術・術後の流れがどのように行われているのか、地域での外科の役割を見学させていただきたいということでこの実習を選びました。

実習先での1日のスケジュール

実習の一日は朝7時半頃より指導医と研修医の先生方と一緒に回診をし、病棟の入院患者さんの病態を把握します。その後8時半よりカンファレンスを行います。また、研修医や学生は週に一回モーニングプレクチャーというものがあり、各科の先生が講義をさせていただきます。9時からは処置回診があるので、学生は積極的に処置に参加し、実習を進めていくことができます。

その後、日中は日にもよりますが手術が毎日何件か行われているため、麻酔の導入から覚醒まで研修医の先生方と同じような仕事をたくさんさせていただくことができました。手術件数はとても豊富で、大体の手術を手を洗って入らせていただくことができ、術者の一員となって手術に臨むことができました。研修医の先生とほぼ同じような仕事（カメラ持ち、縫合、糸結びなど）を体験することができました。望んで17時以降の手術や休日の手術にも参加させていただき、とても充実した1カ月になりました。



茂庭慶悟さん

[実習病院]
帯広厚生病院

「自らが踏み出す一步で将来の医師像を具体化」

地域包括型診療参加臨床実習を選択した理由は？

麻酔救急科、特に麻酔科の全身管理に興味があり、地域の基幹病院での手術を通して、幅広い症例の術中管理に参加することができることと、地域医療の中核を担う医療機関に大変興味があり、この実習を選択しました。

実習を通して得たもの、学んだ事について

麻酔救急科の実習では、手術麻酔の参加を基本としてある程度落ち着いた状況で呼吸・循環動態をはじめとする全身管理の基礎を学び、救急外来搬入やICU入室に際してはその時の考え方がどのように応用されているかを学ぶ、というサイクルを経て勉強していました。また、自分用のPHSを貸していただき、夜間当直に参加し、救急搬送の際には呼んでいただく、という経験もできました。自分が参加した2回の当直ではいずれも一件も救急要請がありませんでしたが、夜間当直ならではの緊張感を、身を以て経験する事ができました。初期臨床研修医の先生が「最初は自分も眠れなかった」とおっしゃっており、どんなに優秀な先生でも最初は自分と同じ立場なのだ実感する機会にもなりました。

実習先での1日のスケジュール

8:10	救急・ICU・術前カンファレンス
8:30	抄読会参加
8:50	手術参加
12:00	休憩・昼食
13:00	救急対応見学、術前診察見学
15:00	手術参加
18:00	勉強会参加
19:00	帰宅

死亡確認に立ち会うことも何度かありました。実習開始日から診させて頂いていた患者さんの死は特に辛いものでした。しかし、終末期の段階を含めて、患者さんのご家族への指導医の対応を見ていると、非常に勉強になりました。医療の枠を超えて、命について考える機会にもなりました。大学での実習ではこういった機会は多くないので、非常に有意義な体験ができたと感じています。

学生症例発表会のスライドを作成する過程では、指導医のチェックを受けるうちに、「医学的な表現」、「簡潔で伝わりやすい言い回し」など、プレゼンテーションの流儀を学ぶ事ができました。

さらに、地域「包括」という面でも多くの学びがありました。担当していた患者さんの1人がホスピスへ転院されたのですが、サテライト施設実習でそのホスピスを見学させて頂く機会があり、そこで患者さんと再会しました。発症からの経過を知っている症例を介して、基幹病院の医師と小規模なホスピスの医師それぞれの役割、その連携について知ることができました。また、夜間急病センターの見学中、訪れた患者さんが市立函館病院へ搬送となり、私も市立函館病院へ戻って治療を見学しました。こういった経験も、地域全体での医療を体感する貴重な機会となりました。

実習を通して得たもの、学んだことについて

手技ではドライラボで指導医や研修医の先生方から熱心に指導していただき、手技をどのようにやるのか、手術の流れや注意するポイントを教えていただいたので、手術が見るだけのものではなく参加しているものであるという意識が強くなりました。手術にも積極的に参加することができ、特にカメラ持ちでは次にどのように動くかということを意識し、常に注意していかないと術者の意図と外れていくので、その操作の難しさを痛感しました。また、多くの症例を見ることで術前・術中・術後の流れも理解することができ、病態の把握の重要性も学びました。研修医の先生方と一緒にいることで、どのような仕事、考え方をしているのかということも教えてもらい、とても有意義で貴重な経験がすることができました。実習をやり終えてみると、1ヵ月前よりも研修医になることや病院で働くということに対するイメージがより現実的なものになり、スムーズに仕事に慣れていける自信につながりました。また、先生方のバイタリティーの高さや患者さんの病態に対する考え方など、学ぶところがたくさんあるので、これからどのようなことをやっていけば良いのかという展望が見えてきました。研修医になったらこの経験を生かして積極的な行動と考えを持っていきたいです。

初期臨床研修医の先生方から麻酔を用いた全身管理に関する「はじめの1歩」を何日かかけて学び、上級医の先生からもう一段階進んだ内容を学ぶことで、段階的に無理せず麻酔の基本について学ぶ事ができました。先生方には優しく丁寧に指導していただき、学生に許される範囲で手技も行わせていただくことで自らが医療現場に参加しているという自覚と緊張感を持って実習に臨む事ができました。

サテライト実習では、救急車同乗実習として終日消防署で救急要請のコールに応じて救急車に乗り、救急現場での対応やその前後の救急救命士の仕事を見ることができました。また、訪問看護同行や慢性期病棟を持つ病院での実習、特別養護老人ホームや介護老人保健施設の見学などがあり、新しい施設介護の形態や体制を見ることができました。どの実習も医師として働いてからは得にくい経験だったと思います。

TV会議システムを用いた症例発表会は、短期間での症例の把握と情報のまとめ、そしてプレゼンテーションと様々な能力が求められ、苦労しました。特にTV会議という特性上、プレゼンテーションの反応が会場の雰囲気として得にくいことが独特の緊張感となってしまいましたが、それもこういったシステムが今後医療現場でより活用される機会が増えることを考えると良い経験になったと思います。麻酔救急科という特性上、患者さんとのコミュニケーションや診察などは行えませんでした。救急搬送された患者さんがICUで全身管理と同時に治療を経て回復していく過程を見られたことは、大変勉強

後輩へのメッセージ

1つの症例を担当し、じっくりと掘り下げながらその疾患について学ぶこと。たくさん症例を次々と目の当たりにし、ルーティンで行われる検査や処置、治療について体で覚えていくこと。この2点を平行して経験できるのがこの「地域包括型診療参加臨床実習」の長所であると思います。診察はもちろん、日々のカルテやサマリーの記載などを通して、多くの患者さんの経過を追っていくことは疾患についての理解を深める絶好の機会です。今まで学んできた知識をどの程度アウトプットできるか、活きた知識になっているかを試してみることもできます。緊張しますが、気負わずに飛び込んでみてはどうでしょうか。

4週間の学外での実習は長いように思えるかも知れませんが、地域医療の最前線で活躍されている指導医、研修医の先生方と共にする時間はとても刺激的で、自分の将来像を具体的にイメージすることができ、その経験は実習を終えて帰ってきてからもモチベーションとして生きてくるものとなります。各地域ならではの美味しい食べ物等を、先生方の熱いメッセージと共にいただける機会もしばしばあるでしょう。そういった機会に恵まれたら、医学的な内容に捕われる必要は無いので色々な話をしてみてください。1人でも多くの先生の、医師としての生き様を感じてみてください。そこから、自分がすべきこと、考えるべきことが見えてくることもあります。みなさんの実習が実り多いものになることを祈っております。

後輩へのメッセージ

今回の実習では外科系を目指している方は特にそうですが、外科の医師がどのような仕事をしているのかなど、将来の選択を考える上でも大変参考になると思います。研修医の先生方も常におっしゃっていましたが、学生のうちから一ヵ月間も地域の病院で研修できるというのはとても貴重で恵まれた環境であり、医学に対しての高いモチベーションになります。大学の実習に比べると実習時間も長く大変ですが、その分とても充実した実習をすることができ、医師になるという実感がどんどん湧いてくることと思います。指導医の先生方や研修医の先生方はやさしく熱心で、実習中も実習後も色々面談を見てくださるのでとても心強いです。ぜひこの地域包括型診療参加臨床実習をとってチーム医療を体験してみてください。実習後には、自信と医師になるにあたっての高いモチベーションが必ずついていていると思います。

になりました。また、文献の検索や医学的事項のまとめなども含め、良い経験になったと思います。

後輩へのメッセージ

4週間という長い期間を大学の外で実習するという事は、生活や人間関係などを含め、とても不安が大きいものですが、その1ヵ月間だけは実習先が自分のいるべき場所であり、精一杯頑張ろうと思えます。実習先の先生方は教育熱心な方ばかりで、手厚く指導して下さいます。また、生活面でも事務の方々が熱心にサポートしてくれます。自分が不安であるからこそ周囲の人の優しさが嬉しく、それをきっかけに話す機会も増え、最初の不安が嘘のようでした。

週末は、その地域を知る良い機会になると思います。実習先の地域を実際に歩き回って見るだけでも、将来の医師像や自分が働く初期臨床研修病院のイメージを具体化していくことに役立つかもしれません。

実習中は自らが踏み出す一歩が大切だと実感する機会が多くありますが、この実習の参加自体が、その最たるものだと思います。自分の学びたい事を、臨床参加を通して学べるこの実習は選択して正解であったと思います。みなさんも考慮されてみてはいかがでしょうか。

先輩からの臨床実習体験記



渡久山 晃 さん
 [実習病院]
 市立室蘭総合病院

「素晴らしい環境の中で多くの症例に触れることができた充実の4週間」

地域包括型診療参加臨床実習を選択した理由は？

私は外科医になることを志望しており、6年生の臨床実習では外科を中心に選択しようと考えていました。特に、私たち学生にも様々な手技を経験させてもらえる科を選択し、将来につなげたいという希望がありました。その中で地域包括型診療参加臨床実習の話を知り、学生という立場で可能な手技を学ぶ場としては最適なのではと考えました。さらに、市立室蘭総合病院が札幌医科大学の関連病院であること、外科や救急の体制が充実していること、そして地域の中核としての大きな役割を担っていることなどを先生から伺い、1か月間ここで実習してみたいという思いが強くなり、地域包括型診療参加臨床実習を選択しました。

実習を通して得たもの、学んだことについて

まず、当初の目標の1つであった「手技を学びたい」ということに関しては、非常に多くのことを経験させていただきました。基本的に毎日手術室に足を運び、ほとんど全ての手術に関わらせていただきました。術中の手技も様々なものを経験することができ、間違いなくスキルアップできたと思っています。また非常に教育熱心な先生方ばかりで、例えばすきま時間に練習できるように縫合の器

実習先での1日のスケジュール

午前	外科の外来実習。 鼠径ヘルニア等の患者さんを診る。用手選納する。
昼	手術実習。 手洗いさせてもらい、鉤引きや縫合などを実施。
夕方	緊急手術に入る。 地域病院ならではの柔軟性を感じる。
夜	当直実習。



箱崎 頌平 さん
 [実習病院]
 製鉄記念室蘭病院

「TV会議での症例発表で養われるプレゼンテーション力」

地域包括型診療参加臨床実習を選択した理由は？

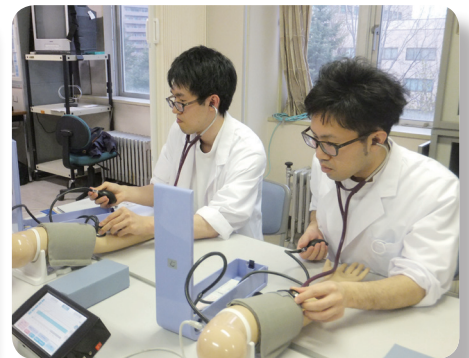
私はこの実習の説明会を聞いた時、最初は実習参加には消極的でした。理由としては、1か月間同じ病院にいるということはしっかり勉強できて、研修医で働いた時のイメージができるというメリットがある反面、4週間札幌を離れることに抵抗を感じていたからです。私は将来内科系を志望しているため、6年生の臨床実習では循環器・腎臓・代謝内科学講座の実習を選択しようと考えていました。実習について担当の先生に相談した際に、「1人の患者さんの入院から退院までの経過を見ることができ、地域の循環器内科の医師がどのような働き方をしているのかわかる。」というメリットを教えていただき、迷いもありましたがこの実習を選択しようと決めました。

その中でも製鉄記念室蘭病院を選んだ理由としては、私の地元であり、初期研修先の病院として考えていたことや、病院のプログラムを見て栄養指導やフットケア外来等、様々なことを学べるのではないかと考えたからです。

実習先での1日のスケジュール

実習は朝8時ごろから担当患者さん3人の回診をして、電子カルテで検査データや夜の看護記録などを確認します。その後一時間ほど、指導医の先生と患者さんについてのディスカッションを行い、病気や検査についてのミニレクチャーが行われます。ディスカッションの中で、患者さんの病態についてのポイントがわかり、何を勉強し何を調べたらよいか明確になってきました。

その後は主にトレッドミル検査やRI検査の介助についたり、新患外来の問診につかさせていただいたりしました。



械を貸していただいたり、糸結びの方法の解説をしていただいたり、何から何までとても丁寧に指導してくださいました。外科を学ぶ上ではこれ以上ない環境で実習ができて、非常に良い経験ができました。

また、地域の病院ならではの症例にも数多く触れることができました。大学病院ではあまり経験できないいわゆる“common disease”を学ぶことができました。将来、どの病院に行っても必ず出会うであろう症例に触れることができたのは、非常に大きな意味を持つと思います。

そして、外科医としてのやりがいや、外科という領域の重要性を学生ながら感じる事ができました。1ヵ月間ほぼ毎日手術に携わり、様々な患者さんと接する中で、外科医がどのようなことを考え、感じながら日々医療に携わっているのかというのを少し理解できた気がします。将来のビジョンとして抱いている外科医という存在に、少し近づくことができたような気がしました。

後輩へのメッセージ

この地域包括型診療参加臨床実習の大きな意義の一つとして、病院のスタッフの一員となって医療に携わることができるという点が挙げられます。言ってみれば研修医に近い立ち位置で実習を行うことができます。日々の回診から病棟業務、手術や外来や検査、あるいは当直などの様々な内容を、とても濃い密度で経験することができます。長い期間、1つの病院の1つの科にお世話になって実習する中で得られるものというのは、あまり経験できないことだと思います。

私は1ヵ月間の地域包括型診療参加臨床実習を選択し、非常に充実した実

習を行うことができました。もし後輩に「選択ポリクリって何とればいいですか?」と聞かれたら、間違いなくこの実習をお勧めします。医療・医学と非常に近い距離で実習を行うことができるので、色々なことを学びたい、手技を自分のものにしたい、当直もやってみたい、地域の医療に携わりたい、先生方とたくさん交流をもちたい等、強い気持ちを持って選択ポリクリに臨みたいと考えている人は絶対に選択するべきだと思います。

そしてこの1ヵ月間の実習は、卒業後研修したいと考えている病院の「病院見学」としての役割もあります。通常の病院見学は2,3日間程度なので、自分をアピールする環境としては非常に整っていると思います。もし現段階で研修先として考えている病院があるなら、この地域包括型診療参加臨床実習で選択することを強くお勧めします。

また、実習先の病院として市立室蘭総合病院を選択することもお勧めしておきます。外科や救急が充実していることはもちろんですが、私が感じたこの病院の特色の一つとして、先生方同士や他のスタッフとの連携がとても良く、いい雰囲気の中で医療を行っている印象を受けました。複数の科が関わる手術の際や、当直の時に専門の先生をコールする際など、他科の先生とのコミュニケーションがとても取りやすく、医療を行いやすい環境が整っていると感じました。とても充実した1ヵ月でした。

繰り返しになりますが、私はとても有意義な1ヵ月間を過ごすことができました。忙しくも非常に楽しい、実りの多い実習でした。ぜひ地域包括型診療参加臨床実習を選択して、たくさんのことを学んでステップアップしてください。

トレッドミル検査やRI検査では技師さんの指導の下、患者さんに心電図の電極を貼ったり、先生と一緒にレポートを書かせていただいたりしました。1ヵ月間心電図を見ていたことで、心電図に対する抵抗感を減らすことができました。午後は主にカテーテル検査の見学や心エコーの実習でした。心エコーの実習では、技師さんに指導していただきながら実際にプローブをあてることができ、貴重な経験をすることができました。

実習を通して得たもの、学んだことについて

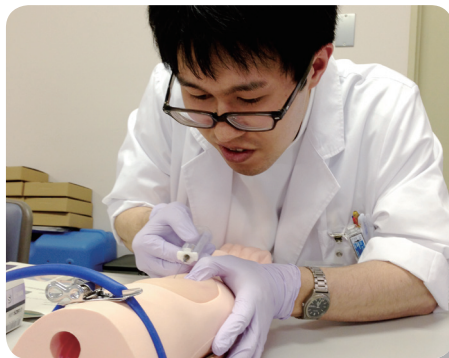
朝から夜まで外来業務、病棟業務、各種検査、カンファレンス等々医師の仕事は多岐にわたり、地域中核病院の先生方は「とても忙しい」というのが、実習を終えてみて私が一番感じたことです。

この実習では、診断の過程や治療をリアルタイムで勉強することができました。例えば救急車で来た患者さんに対して、どのような鑑別疾患を考えて問診、身体所見をとるのか、さらにはどのような検査をオーダーする必要があるのか、コンサルテーションする必要はあるかなど、様々なことを考える必要があります。入院中の患者さんでは、毎日状態を確認しつつ、検査データを見ながら薬剤を調整したり、新たな検査をオーダーしながら診断したり治療を行います。このようなことは、臨床推論等の机上の勉強ではやっていましたが、実際の臨床とは全く違うと実感することができました。初期研修医になってからはこのようなことが求められるのだということ、学生の今の時期に学べたことは私にとってとてもよい経験になりました。

また、症例発表会での発表資料や入院時の病歴要約を作ったことも大変勉強になりました。発表という場でアウトプットすることや病歴要約を作るとは、自分のわからないところが明確になり、さらに考えを深めることができる非常によい機会だと思いました。他者の目が入ることで自分自身を見つめなおすことにもなるので、将来においても大切なことなのではないかと思いました。準備が大変であるという意見もあるかもしれませんが、私は発表資料を作ることでポイントを絞った勉強をすることができたと思っています。資料作りは大変でしたが、この実習の中で一番よい経験になったと思います。

後輩へのメッセージ

製鉄記念室蘭病院は、先生方をはじめ看護師の方や他のコメディカルの方々が非常に親切で、素晴らしい環境で実習することができました。1ヵ月間大学を離れるのは大変でしたが、派遣される学生が一人なので、マンツーマンでしっかりと指導を受けることができ、得るものはとても大きいのではないかと思います。私がこの4週間で学んだことは、プレゼンテーションの大切さです。TV会議での症例発表はもちろんのこと、総回診で担当患者さんについて先生に発表するときなど、プレゼンテーションを行う機会がたくさんありました。4週間の中で完璧にできたわけではありませんが、初期研修医になる前にこのようなことを学べたのはとても有意義だったと感じています。





お問合せ先

北海道公立大学法人

札幌医科大学

事務局：学務課（医学部教務係）

〒060-8556 北海道札幌市中央区南1条西17丁目

TEL.011-611-2111（代表）

地域拠点と連携によるICT連動型臨床実習ホームページ

<http://web.sapmed.ac.jp/medicalccs/>

札幌医科大学ホームページ

<http://web.sapmed.ac.jp/>

